

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)ウイングス光明	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	-------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.5 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	2.5 / 5		がんばろう
3 豊かな自然環境の確保	1.6 / 5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 / 5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応 使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v.1.0)

1 循環型社会への貢献		スコア平均	3.5
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.9	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.7 スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均	2.6
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4.1	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 1
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均	1.7
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2 スコア 2
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均	3.0
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 1.01 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEIm値、住宅: 38.5 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %	
<自由記述>			

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ウイングス光明	階数	地上14階
建設地	福岡県北九州市八幡西区光明二丁目	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域	平均居住人員	117人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 0.0	評価の実施日	2022年6月24日
敷地面積	1,295㎡	作成者	青木 悠
建築面積	262㎡	確認日	
延床面積	2,973㎡	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 71%
③上記+②以外の 71%
④上記+ 71%

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.1

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境へ与える影響が少ないよう配慮した。 また、居住する方々へも同様に良質な室内環境となるよう心掛けた。 		0
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> 良好な採光及び通風確保のため、建物を敷地中心に配置し、敷地境界線からの距離を確保した。 床は二重床とし、床遮音性能にも考慮した。 	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	0	Q3 室外環境(敷地内)
	LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 各住戸の1室には当初よりエアコンの設置を行っている。 天井を高く確保して(H=2.5以上)心理的な快適性を確保している。
	LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> 周辺に配慮して奇抜な色彩を避け、街並みのバランスに配慮している。
		0
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・地中梁部分のコンクリートには高炉セメントを使用し、リサイクル材使用に配慮している。 仕上げ材等にはF☆☆☆☆材を使用し有害物質を含まない材料を使用している。 	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
(仮称)ウイングス光明

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質						2.5		
Q1 室内環境			0.40		-	3.2		
1 音環境		3.0	0.15	2.8	1.00	2.8		
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音	-	3.0	0.50	2.7	0.50			
1 開口部遮音性能	-	3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能	-	3.0	-	2.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音	-	3.0	-	3.0	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0		
2.1 室温制御	-	3.0	1.00	3.0	0.50			
1 室温	-	3.0	0.63	3.0	0.63			
2 外皮性能	-	3.0	0.38	3.0	0.38			
3 ゾーン別制御性	-	3.0	-	-	-			
2.2 湿度制御	-	-	-	3.0	0.20			
2.3 空調方式	-	-	-	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.0	0.25	3.3	1.00	3.2		
3.1 昼光利用		4.2	0.30	3.6	0.50			
1 昼光率	共用部分:6.5% 住居部分:1.5%	5.0	0.60	3.0	0.50			
2 方位別開口	-	-	-	5.0	0.30			
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.50			
1 昼光制御	庇によりグレアを制御	2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度	-	3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	-	-			
4 空気環境		3.6	0.25	3.8	1.00	3.8		
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を採用(パーティクルホドのみF☆☆☆)	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38			
1 換気量	-	3.0	1.00	3.0	0.33			
2 自然換気性能	-	-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	各住戸バルコニーの開口から駐車場まで3m以上の離隔距離を確保	-	-	5.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視	-	3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御	-	3.0	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.9		
1 機能性		3.1	0.40	2.6	1.00	2.6		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	2.0	0.60			
1 広さ・収納性	-	3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	-	2.0	1.00			
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	3.5	0.40			
1 広さ感・景観	住居部の天井高さを2.5m確保	3.0	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース	-	3.0	-	-	-			
3 内装計画	-	4.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	-	2.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-	3.1		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	鉄筋コンクリート コンクリートスラブ:18	4.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	吹付タイル・タイル張り	2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニルクロス貼り	4.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	亜鉛鉄板	3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	VP・HVP・配管用炭素鋼管(白)	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	屋外キュービクル・受水槽(FRP)	4.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-			
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備	-	1.0	0.20	-	-			
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1 階高のゆとり	階高:2,950		3.0	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-		3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	中央式空調設備を持たない		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.1
1 生物環境の保全と創出	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	-		2.0	0.20	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用	2方向採光・通風:各階5戸の内2戸		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	-		2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水	-		1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.60	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減	-		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント 基礎・地中梁		5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+吹付、GL工法		4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	CO2冷媒冷凍機		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	排出率:70%		4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	